

開講年度	2024 年度		
授業コード			
科目名称	地域コミュニティ入門		
副題	～新しいつながりと仕組みで構築する地域コミュニティ～		
担当教員	飛田 敦子		
開講学期	前期	単位数	2
授業全体の内容の概要 ●	<p>少子高齢化、人口減少、税收減、非正規雇用の増加、格差の拡大など、現代社会は様々な課題を抱えています。行政や企業だけでは、それらの課題すべてを解決するのは難しい時代となってきました。そこで注目されているのが、NPOや地域コミュニティといった地域に根差した機能です。高齢者、子ども、まちづくりなど、その分野は多岐にわたり、様々な事例が構築されています。また、それらの主体（地域コミュニティ、行政、企業など）がともに手を取り合って行動する「協働（きょうどう）」も、なくてはならない手法となってきました。</p> <p>特に、2020年から2023年にかけて、新型コロナウイルスの影響で、対面して多様な人間関係を構築するのが難しい時期が続きました。リアルな交流の機会が激減する中で、高齢者の認知および身体機能の低下、産後うつを抱える親の増加など、自粛や孤立による社会課題が浮き彫りとなりました。「感染症による命のリスク」と「孤立による命のリスク」のバランスに苦慮しながらも、少しでも現状を打破しようとする挑戦も各地で生まれ、実を結んでいます。地域コミュニティの役割を再考するためにも、これらコロナ禍における取組事例も授業内で多数紹介します。</p> <p>また、この授業では様々な分野で活躍する実践者の方にもゲストスピーカーとしてご登壇いただき、現場での様々なチャレンジに触れながら、地域コミュニティの実態や役割、またその可能性について共に考えたいと思います。</p> <p>※担当教員は NPO や地域コミュニティをフィールドにした仕事に長年従事しており、「実務経験のある教員」です。</p> <p>① 学生、講師、ゲストスピーカーが皆で一緒に創る授業です。90分授業の前半を講義、後半をグループディスカッションやゲストスピーカーとの質疑応答等の参加型形式で行います。講義を聞いたり、板書したりするだけでなく、他人と議論することに重点を置き、「人と学び、人から学ぶ」授業を目指します。</p>		

	<p>そのため、受身ではなく積極的な参加態度を求めます。</p> <p>② ゲストスピーカーの関係で授業スケジュールや内容が変更する場合があります。</p>
到達目標●	<p>①地域コミュニティの抱える現代的課題の理解</p> <p>②考える力の構築</p> <p>③コミュニケーション能力（話す力・聴く力・調整する力）の向上</p>
受講生の自主学習 (授業前後) ●	<p>ディスカッション課題は事前に発表します。授業時間外にも積極的に調べ、考え、学ぶ姿勢を奨励します。</p>
成績評価方法●	<p>授業ごとのコミュニケーションシート 30%、中間レポート 15%、グループワークで作成する企画書 15%、期末試験 40%</p>
受講生への要望、 その他	<p>参加型授業ですので、学生の積極的な参加がないと授業がなりたちません。ぜひ前向きな姿勢で出席してください。</p>
授業計画 (15 回分記入)	1. ガイダンス
	2. なぜ今、地域コミュニティなのか？ 1 社会の変化
	3. なぜ今、地域コミュニティなのか？ 2 家族の変化
	4. 地域コミュニティの現場～事例紹介①障害者と地域コミュニティ～
	5. 地域コミュニティの現場～事例紹介②中間支援と地域コミュニティ～
	6. 地域コミュニティの現場～事例紹介③外国人と地域コミュニティ～
	7. 地域コミュニティの現場～事例紹介④高齢者と地域コミュニティ～
	8. 地域コミュニティの現場～事例紹介 ⑤地域組織と地域コミュニティ～
	9. 前半の授業のふりかえりと中間レポートの作成
	10. 企業と地域コミュニティ
	11. 行政と地域コミュニティ
	12. 多様な主体による「協働」の可能性
	13. グループワーク 1～私たち大学生が地域コミュニティでできること～
	14. グループワーク 2～私たち大学生が地域コミュニティでできること～
	15. 発表・まとめ
教科書	<p>教科書なし。資料は都度パワーポイントのハンドアウトを配布します</p>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソーシャルデザイン実践ガイド</li> <li>・ つながるカフェ～コミュニティの〈場〉をつくる方法～</li> <li>・ 人口減少社会のデザイン</li> </ul>